特別講演２

「嚥下障害の臨床」

浜松市リハビリテーション病院長
藤島　一郎　先生

嚥下障害は様々な原因によって生じ急性期から慢性期、そして人生の最終段階におけるまで大きな問題となり、当にパンデミックとも言うべき様相を呈している。

嚥下障害においては患者を予防の段階、軽症、中等症、重症に分けて対応を考える必要がある。高齢者においては一度嚥下障害を生じると、なかなか完全に元の状態に戻ることは難しい。可能な限り予防し、ごく軽度なうちに対策を立てる必要がある。中等症、重症例では集約的なリハビリテーションが必要となり、場合によっては手術をしなければ誤嚥防止や経口摂取を回復することが困難となる。重症にもかかわらず「死んでもいいから食べたい」と訴える患者や、人生の最終段階においては臨床倫理的なジレンマに陥り対応に苦慮する場合も少なくない。

本講演では演者の経験を踏まえ症状別の対応も含めて嚥下障害の臨床についてお話したい。